

『心中宵庚申』劇評一覽

— 初代中村鴈治郎上演以後の劇評 —

東 環

凡 例

一、この目録は、明治三十八年初代中村鴈治郎上演の「世話料理八百屋献立」以後の「心中宵庚申」の歌舞伎上演を年代順に整理し、その劇評を能う限り収集して一覽できるようにしたものである。「心中宵庚申」以外に「お千代半兵衛劇」（お千代半兵衛を主人公とするもの）をも収録したので、近松の原作から程遠い改作物や紀海音の「心中ニツ腹帯」の改作等も含み、新派、市川女優座公演も併せて収録した。

一、目録は、外題名、上演年月日、上演場所、配役、特記事項、劇評、の順に記した。

配役は、主要な七名を次の略称で表わした。半—半兵衛、千—お千代、軽—お軽（千代の姉）、平—平右衛門（千代の父）、み—

おみね（半兵衛の養母）、伊—伊右衛門（半兵衛の養父）、太—太兵衛（おみねの甥）。なお、出演俳優名は判っても、役名の定かでない場合は、俳優名を列挙するにとどめた。

劇評については、「劇評」とした次に、(1)劇評題名、(2)執筆者、(3)掲載誌名、(4)発行年月日、(5)巻号、(6)掲載頁の順で記した。掲載頁の表記は、論評文全体が掲載されている初めと終わりの頁を記した。なお、劇評を見付けることのできなかつた上演については空欄とした。

一、全上演の年代順整理について参照した文献は次のとおりである。

「近松浄瑠璃二十種年表」(守隨憲治・乙葉弘・諏訪春雄共編、
『国語国文学研究史大成10・近松』所収)

「近松上演目録年表」(細井栄吉編、『文学』昭和27年10月号)

戸部銀作「幕間」昭和23年2月5日・3巻2号・38}39頁

恋飛脚大和往来―封印切― 昭和24年3月3日}27日 新橋演舞場

(東京) 忠・吉右衛門 梅・芝翫 八・団之助 え・もしほ

治・団蔵 「劇評」 「中村會評判記 新橋演舞場三月公演」利倉

幸一「演劇界」昭和24年4月1日・7巻4号・24}26頁、「丸本

歌舞伎鑑賞」戸板康二「演劇界」昭和24年4月1日・7巻4号・

46}51頁、「中村會晝・夜」戸板康二「幕間」昭和24年4月5日

・4巻4号・44}45頁

恋飛脚大和往来―封印切―新口村― 昭和27年3月3日}27日 歌

舞伎座(東京) 忠・吉右衛門 梅・歌右衛門 八・団之助 え

・納升 治・幸四郎 孫・吉右衛門 「劇評」 「「お國と五平」

ほか」仁村美津夫「演劇界」昭和27年4月1日・10巻4号・40}

43頁、「三月の歌舞伎座 英語劇か「お國と五平」」三宅周太郎

「幕間」昭和27年4月1日・7巻4号・74}77頁

中村勘三郎

恋飛脚大和往来―封印切― 昭和31年11月2日}26日 歌舞伎座

(東京) 忠・勘三郎 梅・歌右衛門 八・勘弥 え・宗十郎

治・団蔵 「劇評」 「藝術祭大歌舞伎―歌舞伎座を顧る―」

三宅三郎「演劇界」昭和31年12月1日・14巻13号・58}61頁、

「「はったい茶」と「いもり酒」」大銀時生「幕間」昭和31年12月1日・11巻12号・74}75頁

恋飛脚大和往来―封印切 昭和41年4月2日}25日 歌舞伎座(大

阪) 忠・勘三郎 梅・梅幸 八・三津五郎 え 多賀之丞 治

・寿海 「劇評」 「意義ある「晝写山」復活」如月青子「演劇界」

昭和41年5月1日・24巻6号・24}26頁

所載)

『近代歌舞伎年表編纂資料4・大阪興行略年表(5)(6)(7)』(園立劇場芸能調査室近代歌舞伎年表編纂室編)

『松竹七十年史』(松竹株式会社編)

『演劇年鑑』(日本演劇協会編)

一、劇評の収集は次の諸雑誌によった。

「演芸画報」「歌舞伎」「帝國文學」「新演芸」「演劇新潮」「歌舞伎(第二次)」「道頓堀」「幕間」「演劇界」「觀照」「歌舞伎評論」

世話料理八百屋献立 明治38年11月1日初日 弁天座(大阪) 半

・ 雁治郎、玉七、政次郎、福助、卯三郎、長三郎、芝雀、右団治

世話料理八百屋献立 明治38年11月29日初日 歌舞伎座(京都)

半・雁治郎、政治郎、徳三郎、巖笑、福助、珊瑚郎、玉七、伝五郎、右団治

八百屋献立 明治39年2月14日初日 朝日座(京都) *但し、こ

れは新玉、琴玉一座に依る俄芝居。

お千代半兵衛八百屋 明治41年10月1日初日 中座(大阪) 半・

雁治郎 千・福助 み・右団治 太・右之助 *〔劇評〕「各地十月藝信・大阪」(なの字報)、『演藝叢報』明治41年11月1日

・ 20年11号・152~153頁

御詠八百屋献立 明治42年7月14日初日 新富座(東京) 半・猿之丞 千・又五郎 み・勘五郎 太・菊四郎

心中宵庚申 明治44年5月5日初日 歌舞伎座(東京) 半・仁左

衛門 千・芝翫 軽・門之助 平・八百蔵 み・卯三郎 伊・段

四郎 太・羽左衛門 *〔劇評〕「歌舞伎座所感―二番目宵庚申

― 櫻庭電村『演藝叢報』明治44年7月1日・5年7号・111~121

頁、「歌舞伎座見物」時雨女「歌舞伎」明治44年7月1日・133号

・ 71~76頁、「心中宵庚申」を見て」芹影女「歌舞伎」明治44

年7月1日・133号・76~78頁、「最近文藝概観、心中宵庚申とそ

の改作」丁『帝國文學』明治44年7月1日・17卷7号・86~95頁

御詠八百屋献立 明治44年7月14日初日 演伎座(東京) 半・染

之助 千・吉三郎 み・勘五郎 太・市蔵

心中二ツ腹帯 明治45年4月1日初日 中座(大阪) 半・多見之

助 千・徳三郎 平・璃徳

心中二ツ腹帯 明治45年5月1日初日 明治座(京都) 半・多見

之助 千・徳三郎 平・璃徳

お千代半兵衛 大正2年2月2日初日 大正座(京都) 璃徳一座

*〔劇評〕「各地藝信・京都」紅涙史生『演藝叢報』大正7年3

月1日・5年3号・149~156頁

宵庚申 大正9年6月5日初日 中座(大阪) 半・鴈治郎 千・

福助 軽・魁車 平・梅玉 み・卯三郎 伊・中車 太・長三郎

* 「芝居見たま、宵庚申」(吉田宗三郎「演藝叢報」大正9年9

月1日)に依ると役名は、おかる、平左衛門、多兵衛となつてお

り、「宵庚申に就いて」(食満南北「歌舞伎」大正15年3月1日)

では、お種、平右衛門、太兵衛とある。「劇評」「芝居見たま、

宵庚申」吉田宗三郎「演藝叢報」大正9年9月1日・7年9号・

100頁、 「宵庚申に就いて」食満南北「歌舞伎」大正15年3月

1日・2年3号・56頁、 「中座の機吹から」 「露の蝶」と

「宵庚申」 「和哥乙鳥」新演藝」大正9年7月1日・5巻7号

・82頁85頁

心中宵庚申 大正11年12月3日初日 南座(京都) 半・鴈治郎

千・福助 軽・魁車 み・卯三郎 伊・鯉十郎、多見蔵、吉三郎

* 上演年月日については、「近松上演目録年表」に大正11年11月

3日とある。ここでは「松竹七十年史」に依つた。

心中宵庚申 大正14年2月4日初日 中座(大阪) 半・鴈治郎

千・福助 軽・魁車 平・市蔵 み・薙女 伊・鰻十郎 太・長

三郎 * 「劇評」 「中座二月狂言 心中宵庚申」高安月郊「演藝

叢報」大正14年3月1日・19年3号・12頁、 「中座で見た女

形」シェーン・アトウド「新演藝」大正14年4月1日・10巻3号

19頁

心中宵庚申 大正14年10月1日初日 松竹劇場(神戸) 半・鴈治

郎 千・福助 軽・魁車 市蔵、吉三郎

心中宵庚申 大正15年3月3日初日 歌舞伎座(東京) 半・鴈治

郎 千・福助 軽・魁車 平・幸四郎 み・薙女 * 「劇評」 「心

中宵庚申」 「演藝叢報」大正15年3月1日・20年3号・12頁、 「心

芝居見たま、心中宵庚申」 「歌舞伎」大正15年3月1日・2年

3号・13頁、 「葦盤太平記と宵庚申」渡邊霞亭「歌舞伎」大

正15年3月1日・2年3号・41頁、 「宵庚申に就いて」食満南北

「歌舞伎」大正15年3月1日・2年3号・56頁、 「宵庚申笑

話」三碧生「歌舞伎」大正15年3月1日・2年3号・63頁、 「近

松劇と鴈治郎」本間久雄「歌舞伎」大正15年3月1日・2年3号

・66頁、 芝居合評會「心中宵庚申」伊原青々園、久保田万太

郎、川尻清澄、三宅周太郎、池田大伍、久保田米齋、岡田八千代、

「演劇新潮」大正15年4月1日・1巻1号・50頁、 「心中宵

庚申を見て」三宅周太郎「演劇評話」昭和3年3月30日・300頁

頁、 「日本演劇考察」昭和23年5月1日・203頁

お千代半兵衛八百屋献立 大正15年11月12日初日 弁天座(大阪)

徳三郎、長太夫一座

八百屋献立 昭和4年2月20日初日 楽天地中央館(大阪) 延童、

佳笑、門童

心中宵庚申 昭和4年10月1日}22日 中座(大阪) 半・鴈治郎

千・福助 軽・魁車 平・市蔵 み・薙女 伊・蝦十郎 太・長

三郎 *〔劇評〕芝居見たまゝ、「十月の中座・心中宵庚申」加世

三癖「道頓堀」昭和4年10月1日・4年37輯・14}17頁、「編輯

後記」松本泰三「道頓堀」昭和4年10月1日・4年37輯・74頁

宵庚申 昭和4年11月1日初日 松竹劇場(神戸) 半・鴈治郎

千・福助 軽・魁車 平・市蔵

心中宵庚申 昭和9年1月2日初日 中座(大阪) 半・鴈治郎

千・福助 軽・魁車 平・市蔵 み・薙女 *〔劇評〕「関西の

芝居見物、名品「心中宵庚申」(無署名)「演藝畫報」昭和9年

2月1日・28年2号・67}68頁、「劇壇往来、傑作「宵庚申」初

春の中座」山口廣一「道頓堀」昭和9年2月1日・9年89号・10

}11頁

宵庚申 昭和11年10月2日初日 東京劇場(東京) 河合、大矢、

喜多村、伊志井、藤村 *但し、これは新派に依るものである。

〔劇評〕「新派拜見記、十月の東劇」松山新一郎「演藝畫報」昭

和11年11月1日・30年11号・6}7頁

宵庚申 昭和16年9月31日初日 中座(大阪) 半・寿三郎 千・

鶴之助 軽・魁車 平・市蔵 み・薙女 太・我当 *〔劇評〕

「讀者倶楽部、浪速雀」、大阪玖一郎「演藝畫報」昭和16年10月
1日・35年10号・76}80頁、「宵庚申」上演、九月の中座」大
阪毎日新聞」昭和16年9月13日

宵庚申 昭和18年5月3日初日 歌舞伎座(大阪) 半・寿三郎

千・富十郎 軽・鶺鴒 平・雙助 み・源十郎 伊・瑠徳 太・

我当 *〔劇評〕「「宵庚申」と「義民傳」、五月の歌舞伎座を

見て」高谷伸「演藝畫報」昭和18年6月1日・37年6号・10頁

宵庚申 昭和22年6月5日初日 南座(京都) 半・寿三郎 千・

富十郎 軽・鴈治郎 平・雙助 み・霞仙 伊・九団次 太・駒

之助 *〔劇評〕「観照同人放談會、鴈治郎 我當への註文」林秀雄、

沼帥雨、大西重孝、武智鐵二、北岸佑吉。「幕間」昭和22年7月

5日・2巻6号・18}21頁、「金閣寺」と「宵庚申」、六月の

南座」三宅周太郎「幕間」昭和22年7月5日・2巻6号・7}9

頁、「観劇半世紀」昭和23年12月15日・198}207頁

宵庚申 昭和22年10月5日初日 歌舞伎座(大阪) 半・寿三郎

千・富十郎 軽・錦吾 平・延若 み・霞仙 伊・竹三郎 太・

駒之助

宵庚申 昭和24年5月5日初日 新橋演舞場(東京) 半・寿三郎

千・梅幸 軽・男女蔵 平・権十郎 み・多賀之丞 太・九朗右

衛門 *〔劇評〕「阪東寿三郎を語る」菱田正男「幕間」昭和24

年5月5日・4巻5号・42〜43頁、「『宵庚申』を見て」岡崎玲子「幕間」昭和24年6月5日・4巻6号・50頁、「近松ものその他」三宅三郎「演劇界」昭和24年6月1日・7巻6号・3〜6頁

宵庚申 昭和24年6月3日〜25日 歌舞伎座(大阪) 半・寿三郎

千・芝翫 軽・もしほ 平・団藏 み・団之助 伊・吉之丞 太

・高砂屋福助 *〔劇評〕「歌舞伎俳優の演技力と持ち味に就いて、歌舞伎座六月興行特に『心中宵庚申』を中心として」石田一

良「幕間」昭和24年7月5日・4巻7号・38〜39頁、藝能目錄

き「演劇界」昭和24年7月1日・7巻7号・54〜55頁、「宵庚申

異論―歌舞伎座六月興行」武智鐵二「鑑照」昭和24年8月・23号

・20〜21頁

宵庚申 昭和27年10月4日初日 歌舞伎座(大阪) 半・寿三郎

千・富十郎 軽・鷹治郎 平・菱助 み・吉三郎 *〔劇評〕「幕

間随想、「獄門娘」の苦しみ」中村鷹治郎「幕間」昭和27年11月

1日・7巻11号・38〜43頁、「新史劇・新平家、十月の大阪歌舞

伎座」北岸佑吉「幕間」昭和27年11月1日・7巻11号・76〜77頁、

「三座かけある記、大阪歌舞伎座・中座・御園座」利倉幸一「演

劇界」昭和27年11月1日・10巻12号・50〜52頁、「『新平家』と

『宵庚申』」藤井康雄「歌舞伎評論」昭和27年11月1日・一卷一

号・21〜23頁

八百屋献立 昭和31年1月2日初日 歌舞伎座(東京) 半・時藏

千・歌右衛門 み・中車 太・高砂屋福助 *〔劇評〕「八百屋

の後家」市川中車「幕間」昭和31年2月1日・11巻2号・42〜43

頁、「絶品」稲蔭三番、「歌舞伎座を鑑る」利倉幸一「演劇界」

昭和31年2月1日・14巻2号・64〜66頁

心中宵庚申 昭和34年1月2日初日 中座(大阪) 半・寿海 千

・友右衛門 軽・菊次郎 平・訥子 み・霞仙 伊・瑠珪 太・

延二郎 *〔劇評〕「『宵庚申』の興味、大阪中座一月興行を鑑

る」沼艸雨「演劇界」昭和24年2月1日・17巻2号・74〜77頁

心中宵庚申 昭和34年11月1日初日 新宿第一劇場(東京) 半・

延二郎 千・友右衛門 軽・我童 み・愛之助 *〔劇評〕「近

松の宵庚申」(無署名)「演劇界」昭和34年12月1日・17巻12号・

54〜55頁

八百屋献立 昭和37年6月9日初日 東横ホール(東京) 升代、寿

々女、福升 *但し、これは八市川女優座に依るものである。

心中宵庚申 昭和40年9月2日〜26日 歌舞伎座(東京) 半・延

若 千・福助 軽・歌右衛門 平・三津五郎 み・霞仙 伊・鯉

三郎 太・権十郎 *「演劇年鑑」では、千代一扇雀となってい

るが、「演劇界」(昭和40年10月1日)に千代一福助とあり、そ

の舞台写真が掲載されている。*〔劇評〕「適役ぞろいの『宵庚

申」加賀山直三「演劇界」昭和40年10月1日・23卷10号・22
23頁

心中宵庚申 昭和53年3月3日〜26日 南座(京都) 半・扇雀

千・藤十郎 軽・雛助 平・菊次郎 み・吉弥 伊・松若 太・

竹三郎 * 「劇評」「未完の花形・円熟のベテラン」守屋毅「演

劇界」昭和53年4月1日・36卷4号・27〜29頁

心中宵庚申 昭和58年11月1日〜25日 歌舞伎座(東京) 半・仁

左衛門 千・梅幸 軽・我童 平・延若 伊・権十郎 太・我当

* 「劇評」「芸術祭参加・吉例顔見世大歌舞伎公演」「歌舞伎新

聞」昭和58年11月1日、「心中宵庚申」志野葉太郎「演劇界」昭

和58年12月1日・41卷14号・26〜28頁